

# 防 除 情 報

平成17年10月21日  
長崎県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予察 防除情報第14号

## 果樹のクワゴマダラヒトリの防除対策について

クワゴマダラヒトリの幼虫巢が各地域の果樹園周辺の雑木（アカメガシワ、カラスザンショウ）で多く見られます。下記の点に注意して防除指導の徹底をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況等

- (1) 10月上旬の巡回調査の結果、かんきつ調査圃場周辺のアカメガシワで幼虫巢（写真1、2）が平年より多く見られた。
- (2) 10月20日に、今春に果樹園で発生が見られた地区など（大村市、飯盛町、多良見町）を調査した結果、アカメガシワ、カラスザンショウ（写真3）の10～30%の樹上で幼虫巢が見られた。なお、発生の少ない年はほとんど見られず、昭和40年代後半に大発生した年には、ほとんどの樹上に複数の幼虫巢が見られた。
- (3) 対馬農業改良普及センターによると、対馬市内で発生が多い。
- (4) 平成14年10月の巡回調査から幼虫巢が目立つようになり、昨年、本年と増加傾向にある。
- (5) 今春は、時津町のぶどう園、大村市のかんきつ園で発生が認められた。

#### 2. 防除対策等

- (1) 果樹園周辺にアカメガシワ、カラスザンショウ、桑などの産卵樹が多いと被害を受けやすい。
- (2) 秋季の発生源防除が最も防除効果が高いので、圃周辺50m以内の上記雑木を伐採するか幼虫巢を除去する。
- (3) 今回の調査では、樹高4～5m以上のアカメガシワ、カラスザンショウの樹幹上部に幼虫巢が多く見られたので、見回りの際にはこの点に注意する。
- (4) 幼虫の分散が始まると除去効果は小さくなるが、すでに分散が始まっていると思われるので、早急に除去する。なお、幼虫巢を発見しやすく分散が始まっていない10月上旬が除去時期として良い。
- (5) 春季に老齢幼虫（写真4）が果樹園へ移動し新梢を食害するが、発生が多いときは新梢が食い尽くされ、収穫が全くできない場合もある。
- (6) 本虫の発生は増加傾向にあるので、今後も果樹園やその周辺の発生に注意するとともに、病害虫防除所が発表する予察情報を確認する。



写真1 アカメガシワ樹上での幼虫巣



写真2 アカメガシワに寄生する  
クゴマダレトリの若齢幼虫（9月）



写真3 カラスザンショウ樹上での幼虫巣



写真4 温州みかん新梢を食害する  
クゴマダレトリの老齢幼虫（5月）